



令和7年度 ふくずみ幼稚園学校評価について

本園では、園の教育や運営等の改善を図ることを目的として自己評価を行っています。この評価活動は、指導の在り方、取り組み方、園としての運営の在り方などを評価することで本園の教育活動を振り返り、次年度の方向性や方策を検討するものです。

今年度の評価結果をまとめましたので保護者の皆様にお知らせいたします。

「教育計画」「指導の重点目標」「保育の在り方」「研修・研鑽・働き甲斐」「保護者との連携」「安全教育」という大きなくくりの中でそれぞれについて4個～9個の評価項目を設定して評価しました。

◇重点目標や教育計画では・・・

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| ①強くたくましい心と体を育てる | ②創造性を高め、情操を豊かにする |
| ③社会性を育て他と協調し合える心を養う | ④自立心を育て他人に頼らず自分のことは自分でする |
| ⑤基本的生活習慣を徹底して身につけさせる | の5つのことを重点にして保育活動を行っています。 |

その中で、成果として以下の点が挙げられます。

○昨年、緊急避難情報の配信で突然職員の携帯アラームが園内に鳴り響き、地震発生を知らせる状況に際し、子どもたちは、騒ぐことなく地震発生を認識して、自ら「ダンゴムシのポーズ」を作って自分の身体を守りました。放送連絡が入る前に自分たちでこのような行動がとれたことは、年間5回、状況を変え、災害発生時間も変えて実施している避難訓練の成果であると確認しました。日常の積み上げが大切であることを改めて認識した瞬間でした。

◇組織運営では・・・

○認定こども園への移行を見据えて、令和7年度から園の運営の方法（職員の勤務体系や登降園時のお子さんの受け渡し方法など）を工夫して取り組んでみました。

次年度は2階建ての施設となることも含めて、新たな役割分担や、保護者への連絡方法など、更にきめ細かい情報共有と連携を行う必要性を確認しました。

○登降園時のお子さんの受け渡し方法では、園内まで送っていただいたり、ホールまで迎えに来ていただいたり保護者の皆様にも御協力いただき令和8年度の登降園の方法を考えることができました。

《今後に向けて》

○アプリなどのICT機器の導入により負担軽減と効率化を図っていきたいと考えています。

◇保育の在り方や研修では・・・

○一人ひとりの子どもたちの内面に寄り添う保育の在り方や集団生活を通して心も身体も強くたくましく育てていくための教育内容や教職員の子どもたちへのかかわり方など課題意識や問題意識をもって研修に参加することができました。

○次年度は乳児を迎えることになるため、誤嚥や事故への対応の仕方を学ぶために救命救急講習を継続して受講し、緊急時の対応の仕方を確認することができました。

●研修で得たことを職場に還元していくための方法に課題を感じています。これまでのような一堂に会しての研修体制がなかなか整えられないことが考えられるため、紙面交流やラインでの周知、連絡ボードの活用など工夫する必要があると考えています。

◇地域・保護者との連携では・・・

○令和8年度からPTA組織が無くなります。無くなったことでのデメリットを無くしていくように、これまで以上に保護者とのコミュニケーションを大切にしていきます。お子さんのことで心配なこと（発達、言語、体力面、人間関係など）がある場合には、園での様子を見ていただくことも含めて対応していきます。担任、又は教頭までいつでもご相談ください。

○幼稚園は集団生活の場です。幼児期の集団生活の場は自立を促したり自律を育んだりすることがとても大切だと考えています。

- ・自分でできることを増やす場（自信と意欲）
- ・みんながそれをやっても大丈夫かを学ぶ場（共生）
- ・友達とのトラブルや共通の課題に対して自分たちで相談して解決する力を養う場（共生）
- ・友達と一緒に頑張れる場（競い合い、我慢）

ですからルールや約束が必要となるのです。服装（排泄時に汚れやすいスカートや重ね着など）や降園時の園施設の使用制限（グラウンドで遊ばない、駐車場で遊ばないなど）をお願いしているのも集団生活の場を大切に考えているからです。もちろんお子さんの発達段階や年齢によってかかわり方は違います。しかし、相手を否定するのではなく、気持ちに寄り添いながら子ども自身が考えていく力を身に付けていけるようにするかかわり方は各学年共通です。ぜひ保護者の御理解と御協力をお願いいたします。

